

年頭あいさつ

新年あけましておめでとうございます。今年も進行中であり、水産業の環境整備は遅れているようにも感じられます。そのような中、昨年の水揚げ状況は、ギンザケが順調であり、数量、単価とも良好でした。現在、盛漁期を迎えている鮮力キも前年同期を上回る実績、乾のりも生産量

浜に活気、「再生」確実に 漁港など環境整備に遅れ

経営管理委員会会長・丹野一雄



までもなく、県内の各浜では以前のよう活気を取り戻し、宮城の水産業が

また、組合員の皆さまの減少を単価が補うなど、関係機関のご協力のもと、復興から「再生」への歩みは確かなものとなっております。皆さまの尽力のたまものと衷心より感謝申し上げます。

漁業権の優先順位含む

「水産政策の改革」松本理事長に聞く



政府が水産政策の改革に向け臨時国会に提出した「漁業法等の一部を改正する等の法律」が12月、成立した。漁業権許可制度の見直しなどで、

松本理事長は、漁業の根幹に関わる法案が短期間に閣議決定され、国会で短時間の質疑で成立したことに抽速感

石森喜一氏が優勝

審査会「レベルの高い年」

鹽竈神社「献上のり」

皇室への「献上のり」を選出する新年恒例の「奉獻乾海苔(ほしのり)品評会」の審査会が1月6日、塩竈市の鹽竈神社で開催された。優勝に輝いたのは



品評会は今年で71回目。当組合と産業振興大祭協賛会が主催し、11支所の17地区から102点のノリを選んだ審査会

は否めない。法改正は、資源の適切な管理と水産業の成長産業化の両立を図り、漁業者の所得向上と漁業就業構造の確立を目指すとしている。この成長産業化

する際の優先順位がなく、企業への参入が始まると心配されています。松本理事長は、養殖などの漁業権については、改正漁業法でも優先順位は含まれるという解釈だ。

松本理事長は、確かに漁業者は減少したが、県内の各浜に空き漁場はないという認識だ。魚種によっては漁場が足りないという人もいます。

海産物調整委員の公選制を廃止し、全員を知事が任命するとしている点は、

松本理事長は、罰則強化は密漁の抑止にも効果があると評価している。

仙台湾に保護区域 同封チラシに詳細

密漁の罰則金が最大200万円から3千万円に引き上げられるとい



宮城県産 寒流のり 使用

と仙台東地区の一部154店舗で28日までを予定。具材は「焼鮭」「肉味噌」の2種類。

「持続可能」な漁業を

子どももらに伝えたい

青年部

志津川支所

活動が盛んで、18人いる部員のなかには高校を卒業した人も2人いると

いう、若くて勢いのある青年部だ。活動の種類は多く、磯焼け対策、シロサケの海中飼育、小学校での出前授業、各種イベントへの参加など。

志津川支所は昨年10月にラムサール条約に登録された。豊かな藻場が評価された。豊かな藻場が評価されたが、一方で磯焼けも進んでいる。青年部では東北海大学の協力も得、201



④シロサケの稚魚移送作業 ⑤小学校の出前授業でワカメの説明をする青年部員



佐藤一弥部長

4年からウニの駆除を行っている。何年も続けることで明らかにアラメ群落が回復。今後も継続していく。以前から「登録されても恥ずかしくないように」湾の藻場を守っていきたくという思いが部員全員にあった。

シロサケの海中飼育は志津川湾水系さけます増殖協会からの依頼。サケは地元市場の水揚げの約6割を占める重要魚種。震災前から海中飼育し放流を行ってきたが、震災で施設も稚魚も流失。将来の水揚げを懸念し、すぐさま自力で復旧させた。現在50万尾を飼育。

「皆親の世代の青年部活動を見て育った。そして今、自分たちが親となり、小学校のPTA会長などを務める歳になった」と佐藤一弥部長。

自分たちの子の世代に向け一昨年から始めたのが地元小学校での出前授業。4年生にワカメの生態などを教え、塩蔵ワカメの芯抜き作業も体験。「意外と地元の海のことを知らない」のは驚きではあったが、その一方で反応がよかった。道歩いて「ワカメのおっちゃん」と声をかけられることもある。

養殖物は年月をかけて出荷までこぎつけるというのを教えたいため、学校の協力も受け、一昨年の秋には種はさみ、翌春にはそのめかぶ削ぎの体験授業もした。

ホタテの耳つり体験、船に乗せて漁場を案内したり秋サケの生態を説明するなど実施。それぞれワカメ、カキ、ギンザケ、ホタテなどに着業し、忙しい時期も異なるので、昨年担当分けをし、皆が無理なく携われるよう工夫している。

「食べる」ところまでを体験してもらいたい。規制は多いが「志津川湾の、しかも採れたてのもの」は間違いなくおいしいから」と佐藤部長。

イベントにも積極的に参加し、自慢の養殖物をPRする。16年には神戸マラソンで蒸しホタテを販売し、好評だった。普段消費者と直接触れ合う機会はない。だから消費者はどう思っているのか、どうしたら売れるのか、それを考えるまたとない経験となる。「立派なものを作りたい」という意識が高く、「皆かっこいいですよ」と佐藤部長は胸を張る。

協同組合論

北海学園大学 経済学部教授 濱田 武士

15



漁業法改訂、県との協議に力を

漁業法が改訂されることになりました。この改訂で、特定区画漁業権、優先順位制度、海区漁業調整委員会の公選委員制度がなくなることにになりました。

特定区画漁業権は、宮城県内で営まれている養殖種全てに必要とされる権利であり、その免許先は優先順位制度で地元漁協に優先されてきました。しかし、それがなく

なることで、基本的に個別の漁業者に付与される区画漁業権となります。ただし、適切かつ有効に漁場が利用されていて、漁業者が望む場合は、これまでと同じく漁協に免

れる公選委員でした。しかし、実態として選挙があまり行われていないという理由に公選委員制度が廃止され、今後は都道府県が全ての委員を選ぶことになりました。

このようにことを意味しているかお分かりでしょうか。ひとつは、養殖や定置網の事業者に対して漁民の意思を結集させて対抗するという法的手段が失

れたという事です。これまで外部の企業が養殖を営みたいとき、漁協の組合員になるか、漁協や浜の了承を得て漁業権を都道府県から直接免許されるかが条件でし

た。新法でも、紛争を防止することが基本なので、県行政の企業参入の進め方も現場レベルではこれまでと変わらないと思います。ただし、次の点が大きく変わります。

「漁民」が消える点です。優先順位は、定置の場合1位、養殖の場合2位に位置付けられる対象者が「地元漁民の7割以上を含む法人」でした。また海区漁業調整委員会公選委員の選挙の有権者は、漁業に従事する漁民でした。漁民とは、年間90日以上、漁業で働く者を意味します。経営者だけでなく乗り子も含まれるわけです。優先順位、海区漁業調整委員会

この基本が直ちに変わるという点ではありませぬ。ただし、法的には県行政サイドが主導権を握ることができるようになります。したがって、今後、より県行政と漁協との関係が問われることになりそうです。

では、これからどうすればいいのか。その答えは簡単です。これまで以上に、県行政、漁協関係者そして漁民とが、顔を合わせ、しっかりと話し合う場を増やすことです。

許されるとしています。競願になった場合は「地域の水産業の発展に資する」ものに優先されるようになります。

海区漁業調整委員会は15人中9人が選挙で選ば

知事が選んだ候補者を議事にかけて選出するという事です。浜とは関係のない議員が多い県議会のなかで委員が選ばれる、ということになります。

これらの制度の廃止は

これらのほか海岸清掃も継続。昨年はヒジキ養殖試験も軌道に乗ってきた。志津川支所の青年部担当の高橋義明さんは「若いからいろんな発想が生まれますね。それが大事」と話す。

こうした精神的な活動を佐藤部長は、「自分たちが親になり、子どもたちのために頑張りたい」という思いが強くなった。「持続可能」の「持続」というのは、子どもたちがどう伝えるかということ。この海の豊かさをちゃんと伝えていくか、常に考えます」と話す。

資源や環境だけでなく、人も思いも持続させてきた頼れる青年部だ。

支所の健全な運営や組合員への経営指導、漁家の経営の安定に努めたことが評価された。当組合の発足と同時に経営管理委員に就任し経営基盤強化に貢献したり、東日本大震災からの復旧・復興で大きな功績があったことが認められた。

長が主催する第34回「みやぎ海の子」作文の表彰式が12月25日、石巻グランドホテルで開催されました。子どもたちの「海を愛する心」を育てることが目的で、毎年、県内に住む小中学

生を対象に募集し審査、表彰を行っています。夏休みに書かれた作文89点が県内23の小中学校から寄せられました。厳正な審査の結果、第一部(小学1〜3年生)、第二部(小学4〜6年生)、第三部(中学生)各8つの賞で合わせて24人が受賞し、表彰式で賞状と記念品が授与されました。

畠山唐桑運営委員長に 漁協運動功労者の栄誉



畠山政則運営委員長

本年度漁協系統功労者表彰が11月22日に東京・如水会館であり、唐桑支所の畠山政則運営委員長(64)が栄誉を受けた。

全漁連が主催。漁協運動功労者に畠山運営委員長はじめ37人、本年度からの漁業振興功績者に34人が選ばれた。

支所の健全な運営や組合員への経営指導、漁家の経営の安定に努めたことが評価された。当組合の発足と同時に経営管理委員に就任し経営基盤強化に貢献したり、東日本大震災からの復旧・復興で大きな功績があったことが認められた。

長が主催する第34回「みやぎ海の子」作文の表彰式が12月25日、石巻グランドホテルで開催されました。子どもたちの「海を愛する心」を育てることが目的で、毎年、県内に住む小中学

女性部連絡協議会

当組合女性部連絡協議会(江刺みゆき会

この基本が直ちに変わるという点ではありませぬ。ただし、法的には県行政サイドが主導権を握ることができるようになります。したがって、今後、より県行政と漁協との関係が問われることになりそうです。

では、これからどうすればいいのか。その答えは簡単です。これまで以上に、県行政、漁協関係者そして漁民とが、顔を合わせ、しっかりと話し合う場を増やすことです。

受賞作品は冊子にまとめられ来場者に配られたほか、応募のあった小中学校や各支所に配布されます。

第34回「みやぎ海の子」作文入賞者

部	賞	氏名	題名	学校名	学年
第1部	宮城県知事賞	佐藤 長征	ぼくのホワイトブーツヒーロー	女川町立女川小学校	3年
	宮城県漁業経営管理委員会賞	中村 真那斗	大すきなつり	気仙沼市立唐桑小学校	2年
	宮城県漁業共済組合賞	菅原 ちさ	わたしのすきな時間	南三陸町立戸倉小学校	3年
第2部	宮城県JF共済推進本部賞	浜畑 侑生	海の色	石巻市立奇巖小学校	3年
	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	今野 大洋	大洋丸	石巻市立東浜小学校	3年
	宮城県漁業信用基金協会理事賞	阿部 希世輝	お父さんの仕事	石巻市立東浜小学校	3年
第3部	農林中央金庫仙台支店賞	阿部 慶	お父さんのおしごと	石巻市立東浜小学校	2年
	宮城県漁協女性部連絡協議会賞	遊佐 慶紀	お父さんの仕事	石巻市立大原小学校	3年
	宮城県知事賞	渡邊 成海	新品のカップ	石巻市立奇巖小学校	6年
第1部	宮城県漁業経営管理委員会賞	阿部 匠之介	待ってっからね、お父さん	石巻市立渡波小学校	3年
	宮城県漁業共済組合賞	小松 輝	大好きな唐桑の海	気仙沼市立唐桑小学校	6年
	宮城県JF共済推進本部賞	鈴木 優波	「ホタテとホヤ」	女川町立女川小学校	4年
第2部	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	澤田 奏音	ウニの開口	南三陸町立戸倉小学校	5年
	宮城県漁業信用基金協会理事賞	菅野 類	あなごつり	石巻市立東浜小学校	5年
	農林中央金庫仙台支店賞	村田 めいり	私のおじいちゃんの仕事	石巻市立万石浦小学校	4年
第3部	宮城県漁協女性部連絡協議会賞	西條 花菜	お父さんと海	南三陸町立戸倉小学校	2年
	宮城県知事賞	父は働者	父は働者	女川町立女川小学校	4年
	宮城県漁業経営管理委員会賞	菅原 希香	私たちの海	気仙沼市立大谷中学校	3年
第1部	宮城県漁業共済組合賞	及川 愛佳	海的环境下について考える	気仙沼市立津谷中学校	2年
	宮城県JF共済推進本部賞	佐藤 知花	本来の姿を取り戻す	気仙沼市立津谷中学校	3年
	日本漁船保険組合宮城県支所運営委員長賞	小野寺 香月	私たちの海	気仙沼市立大谷中学校	3年
第2部	宮城県漁業信用基金協会理事賞	佐藤 和	海洋ごみを減らすために	気仙沼市立大谷中学校	3年
	農林中央金庫仙台支店賞	秋山 慎之介	これからの女川の漁業	女川町立女川中学校	2年
第3部	宮城県漁協女性部連絡協議会賞	及川 夏苗	海を守る	気仙沼市立津谷中学校	1年

組合からのお知らせ

信用共済部

キヤンペーン実施中

金利優遇 一部漁船関連機器も追加

当組合は、浜の暮らしを漁業経営・生活の面からサポートするため、積極的に、意、提案して取りま

これまで事業性資金は融資の対象外でしたが、多目的ローンでは漁船、エンジンを除く漁船関連機器類が対象になりました。魚群探知機、集魚灯、GPS機器等計器類、修理代金、漁網、活水水槽、加工機器など幅広くご利用いただけます。

組合員の皆様へ最大1.00%金利優遇キャンペーン

ジャックス保証付個人向けローン

取扱期間：平成30年4月2日～平成31年3月29日

JFみやぎの利用状況に応じ、該当項目1つにつき0.2%金利優遇となります

- 水増し代金、給与、年金のいずれか口座振込みをしている方
- 金額10万円以上の定期貯金、積立定期をご契約の方
- 公共料金(電話、電気、水道、NHK)のいずれかの口座振替を行っている方
- 共済等に加入されている方(デココ・くらし・かさい等)
- 契約金額10万円以上の定期積金をご契約の方

リフォームローン 金利 3.450%～2.450% 資金使途 住居の修繕費、住宅設備器具購入、キッチン、トイレ、浴室等リフォーム、パリアフリー工事、太陽光発電等 融資総額 10万～1,500万円以内 返済期間 6ヶ月～20年以内	マイカーローン 金利 2.800%～1.800% 資金使途 自動車購入、車検、修理費用、マイカーローン借換費、運転免許更新費用等 融資総額 10万～1,000万円以内 返済期間 6ヶ月～10年以内	教育ローン 金利 2.600%～1.600% 資金使途 学費等納付金、教材費・制服代、教科書代1冊分、仕送り費、教育ローンの借換費等 融資総額 10万～500万円以内 返済期間 6ヶ月～16年10ヶ月以内
多目的ローン 金利 3.300%～2.300% 資金使途 耐久消費財購入等の健全な資金、空の家の解体・仮設費用等 融資総額 10万～500万円以内 返済期間 6ヶ月～10年以内	無担保住宅借換ローン 金利 3.350%～2.350% 資金使途 住宅ローン借換、以前より低金利住宅ローンの借り換え等 融資総額 50万～1,500万円以内 返済期間 6ヶ月～20年以内	フリーローン 金利 4.500%～3.500% 資金使途 雑用(事業性資金を除く) 融資総額 10万～300万円以内 返済期間 6ヶ月～6年以内

3月末までのキャンペーン期間中にローンをご契約された方は、口座振り込みなど組合の利用状況に応じて最大1.00%の優遇金利が適用となります。さらに「漁業者家計メイン化推進運動」を実施中。新たにご成約のお客様には雑貨・グルメのカタログ



仙南支所(山元)・猪又賢さん



安全第一。資源と魅力ある仕事を次代へ

猪又賢さん(64)は、県の最南の海、山元で漁師をして40年を超えた。妙見丸(4・9丁)で周年刺網漁に従事し、カレイ類などを揚げている。一昨年から同支所の運営

委員長も務めている。高校卒業後就職もしたが、23のときに戻ってきた。漁師のほがすつと稼げたからだという。「あのころはマグロなんかも獲れたし、一生懸命

から、産卵期は早めに切る。り上げる、漁場を4区に分け、1区は禁漁にするなどの取り決めをしてきた。だんだん共同船で獲るようになり、昭和60年ごろから「操業委員」

を設け、1日の漁獲上限を決めたり、単価の安いときはあまり獲らないなど、さまざまな決まり事をつくっていた。県内では最も早くから資源管理を徹底してきたといえ

用し、砂を水圧で動かしてその後を引いていく。ある程度のがれきも乗り越えられる。3台の提供に加え、昨年、町の55%の補助を受け7台を購入。これで安全に効率よく

津波は北と南から一気に押し寄せ、家の多くが土台だけになった。143世帯あった家が、今は15世帯のみ。猪又さんも母と息子を失った。猪又さんが父と船に乗り始め

た頃一緒に乗船していた頼れる「おっか」だった。無我夢中で前を向き、平成25年には新しい家を建てた。

また運営委員長として「安全第一」のときっぱり。かつて従事したホッキ漁でも、一隻の船には必ず2人乗船するといふ決まりを早くから設けていた浜だ。



ワタリガニ汁を提供した町の産業まつり。これを目当てに訪れる人も多かった



志津川支所に会長特別表彰

日本漁船保険組合 日本漁船保険組合(三宅哲夫会長)主催の第27回全国漁船保険推進のつどいが11月、東京都のホテルで開かれ、志津川支所の佐々木孝男運営委員長(左)

所が「優良漁業協同組合・漁船船主責任部門」で会長特別表彰を受賞した。女川町と浜の両支所に感謝状が贈られた。この部門の会長特別表彰は、納めた保険料から払い戻しを受けた保険金を差し引いた「寄与額」が全国で優秀だったら漁協と民間企業1社が受賞。表彰盾が贈られた。

産業まつりにボツケ汁200食

七ヶ浜支所女性部 初の料理教室も

合併前からの各漁協の女性部を統合。それぞれ力を合わせ、まとまって活動している。主要なものは、町の産業まつりへの参加。一昨年末はボツケ汁を1800〜2000食も無償提供。昨年はボツケが不漁で、ワタリガニ汁を出した。まつりの大きな呼び物のひとつだ。かたわらでは海難

遭見への募金なども呼び掛けた。また、昨年は初めて料理教室を開催した。「おさかなかたりべ」の酒井敬一さんを講師に招き、講習会の後に調理。「名前を覚えるのかもしれない」という横文字の料理にも挑戦した。今度も、カニ、ボツケ、ノリなど七ヶ浜が誇る海の幸を季節ごとに使った料理教室を開催していきたいと考えている。「その時期の旬のもの、皆さんにどうやって

て知ってもらおうか、部員は欲しい」と佐藤順子(よりこ)部長は話す。部員は全部で二百数十人。「皆が寄ればいろんな情報が集まる。同じような仕事をしているから、うちではこうやっていこうという話も参考になる。いろんな意見も出て、それが(女性部活動の)一番いいところ」と佐藤部長。

他支所と同様、部員の高齢化と、活動するのが同じ顔触れになってしま

うというのが悩みの種ではあるが、産業まつりと料理教室を柱に「もう少し欲を出して何か」をしたいと画策する。周年手のかかるノリ着業者が多いため、なかなか集まるのが難しいといえ、「今年度、来年度に向けて役員の集まりを増やして新しい活動を話し合っていくたい」と前向きだ。七ヶ浜支所ならではの魅力的な活動が、少しずつ増えていくことを期待したい。

豊かな漁種、支える強力チーム



石巻総合支所 地域・経済両センター 3つの総合支所のうち、中部の石巻市と女川町の12の支所を統括する。管内の組合員数2332人、うち正組合員984人、准組合員1348人。職員は地域センター2人、経済センター10人。取扱高は2017年度で164億8100万円。カキをはじめ全ての養殖魚種がそろい、漁船漁業も盛んだ。

養殖魚種全てそろう

12支所の養殖魚種はノリ、カキ、ワカメ、ホタテ、ギンザケ、ホヤと県内の全てがそろう。漁船漁業は春漁のイサダ、コウナゴから、イカつり、底引、サンマ、アナゴ、刺網、採介藻など多種多様。「日本の魚食を支えているのが宮城県の漁業であり、中部地区の漁業

者の皆さんの貢献度は大きい」と阿部恵一地域センター長は話す。

養殖魚種はギンザケの一部を除き全て共販で、経済センターでは共販事業が主体。岩崎幸雄センター長は、「生産者が一生懸命手をかけたものを少しでも高く売りたい」と日々奮闘している。

処理や、カキ販促等の「石巻市沿岸漁業振興協議会」。次にホシガレイやヒラメ、稚ナマコ、アサリ稚貝の放流など資源管理型の栽培漁業を進める「中部地区栽培漁業推進協議会」。ほかに「宮城県漁協青年部石巻総合支所支部」、「表浜石巻地区乾海苔生産者の会」。

木村千之運営委員長は「お金になる漁業をするためには、時代に乗り遅れたんではだめだ。設備や漁具の投資でも、どんなに進んでいかなくちや。一回遅れてしまったらなかなか追いつかれないから」と力を込める。

若い漁業者たちは自分たちが育てたものを積極的に全国に発信し、あるいは世界を見据えて生産・販促。「販促は漁協にと

って永遠のテーマ。震災後は浜と支所総合支所、本所が一体となって取り組んでいる。若者のパワーやネットワークを大きく後押ししている。

数ある養殖魚種のなかにはここ数年の不振にあえぐホタテや、昨年種苗不足に苦しんだワカメもある。春漁も不振だった。いいときばかりではないが、どんなときも各支所の状況をしっかりと把握し本所に伝える。

「これは野球でいうとショートかセカンド。センターから来たボールを私たちがしっかりと中継しバックホームする。まさに、チームプレーです」と阿部センター長。

石巻総合地域・経済センター

支所を訪ねて

気仙沼総合金融センター



高橋勇太郎センター長

阿部恵一地域センター長

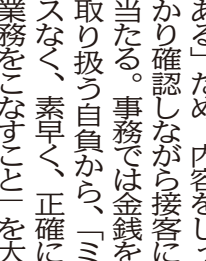
岩崎幸雄経済センター長

気仙沼総合支所 金融センター 南三陸町から気仙沼市までの北部地区金融部門を担当する。職員は歌津、志津川支所のセンター窓口も合わせて20人（臨時、嘱託含む）。2018年11月末時点で貯金口座数1万4387口、貯金残高338億4900万円、貸付金25億1300万円。



丁寧な対応心がけ

同センターの施設は気仙沼地区支所と併設。主な業務は、信用事業で貯金の預け入れや融資の推進、管理と、他金融機関への振り込みや入金などの為替対応。チョコーなどの共済事業も推進する。店舗は同センターの



高橋勇太郎センター長

安部俊一次長代理

ほか、歌津、志津川両支所に窓口を開設。唐桑支所では火、木の曜日限定で店舗を設ける。

貯金口座数は3つの総合支所の中で最多だ。「窓口にいらいっしやるのは高齢な方が多く、丁寧な対応を心がけている」と話すのは安部俊一次長代理。「耳が遠い、

頑張る環境整える

高橋勇太郎センター長は「組合員の水揚げが増えることが一番。市場も加工屋も支所もみんな潤う」と強調。

安部次長代理は「組合員に頑張ってもらえる環境を金融面から整える。水揚げを増やすために融資の対応などで協力でき、資材の購入や船の機関換装などで水揚げ能力を増やすサポートができれば」と心がける。

組合の人事ローテーション制度で、昨年の4月から志津川、歌津の両支所窓口職員を金融センターの所属に変更。現在は

積極的に声がけを

課題もある。高橋センター長は「支所にもよるが、お客さんは（他の金融機関と）金利などを比べて選ぶため、顧客流出もある」と説明。高齢者の場合は窓口業務終了をきっかけに切り替えることもあるという。

唐桑支所では曜日限定窓口があるが、大谷本吉支所、大島出張所は昨年閉鎖した。安部次長代理は「流出防止としてATMを設置するがなかなか難しい」と頭を痛める。積極的な声がけを進めて流出の抑制を狙う。年度末にかけて定期貯金の推進を図り、ダイレクトメールと電話で来店を呼びかけている。

水揚げが一番、金融面から支援

魚種であるホタテ、ワカメ、イサダなどの水揚げが不振となり苦しんだ。漁業者の収入が減れば生活費のため貯金の取り崩

者がいる支所も多いのが特徴だ。「収入がよければ当然生産者は残る。それが代々つながらないと岩崎センター長。

「品質の良いものを作り、稼げる漁業」を目指してきたことに加え、周年何らかの水揚げがある豊かな漁業資源も幸い。

木村千之運営委員長は「お金になる漁業をするためには、時代に乗り遅れたんではだめだ。設備や漁具の投資でも、どんなに進んでいかなくちや。一回遅れてしまったらなかなか追いつかれないから」と力を込める。

若い漁業者たちは自分たちが育てたものを積極的に全国に発信し、あるいは世界を見据えて生産・販促。「販促は漁協にと

って永遠のテーマ。震災後は浜と支所総合支所、本所が一体となって取り組んでいる。若者のパワーやネットワークを大きく後押ししている。

県外のイベントに積極出展 カキはじめ好評売!



行列が絶えなかったFish-1グランプリのブース

当組合では秋から冬にかけても、シーズン入りしたカキを中心に、県内外で積極的に宮城県産水産物をPRしています。10月には宮城県庁前で2018年カキ出陣式を開催。カキ汁をふるまいました。11月には愛知でのデンソーイベントや名古屋市場まつりに殻付きカキや焼きホタテ、蒸しホヤなどで出店。11月25日に東京・日比谷公園で開催されたFish-1グランプリでは、プライドフィッシュ料理コンテストで当組合が出品した「蒸しカキの和・洋・中ソース添え」が全漁連会長賞を受賞しました。来場者にも好評で700食を完売。残る今年度は、県内の食育活動を展開していきます。



名古屋での市場まつりで提供した蒸しホヤ。完売するなど、年を追って浸透の兆しがみえてきた